

## 令和3年度 第2回石狩叢書発刊編集委員会

■日時：令和3年11月24日（水）10：00～

■場所：石狩市役所3階 庁議室

■出席者：下記表のとおり

委員・臨時委員		職員（事務局等）	
役職	氏名	所属	氏名
委員長	田岡克介	総務部長	及川浩史
委員	石橋孝夫	総務部総務課文書・法制担当主査	森本栄樹
委員	村山耀一		
委員	志賀健司		
委員（臨）	三島照子		
委員（臨）	工藤義衛		

### 【事務局（森本）】

令和3年度第2回石狩叢書発刊編集委員会を開催いたします。

本日の議題は、石狩叢書第2巻の編集です。

テーマは「鮭の鱗」で、30のストーリーがあり、文字数でいきますとトータルで100頁、それに加えて絵や写真が入ります。扉の部分に写真を使用し、写真の廊下のところに、テーマである鮭の鱗と書くこととなっております。

それぞれのストーリーに入る絵や写真は、本日配布しました資料1から57までであり、各ストーリーに数枚入ることとなります。まだ、一部資料がそろっていないものがありますが、今後、文化財課にお願いしながら揃えることとなります。

### 【田岡委員長】

私からも説明しますが、原稿作成に当たり、できるだけ今まで色々なものに出てくるものは避けるようにして書いたつもりです。そうするとどうしても自分の体験が多くなってしまい、年次で、明らかに勘違いや間違いなどもあり、記憶違いやうろ覚えのところもある。例えば、石狩の鮭の放流事業では、それが記憶の中では、確かにあって見に行ったという記憶はあるが、どういう役割をしたかったのかというあたりが記憶にない。やめた理由も記憶はあるのですが、もう少し調べて、補足していかないとだめかなと。補足が必要な箇所はまだあり、記憶があいまいだというところが少しあります。

それから、基本的にできるだけ原文の資料をここに載せないように整理しました。載せるのであればそこで何という風に読み取るかとして、ひらたくみんなが読んでいただけるようにしたつもりです。そういう意味では、いしかり暦や石狩叢書第一巻とはだいぶ異なる。資料に基づいて発表をする形ではなく、むしろ読んでもらうということに力点を置いております。そのため、明らかな間違いはぜひご指摘いただければと思います。

それから資料は、見やすい写真など入れようと、少し多めに準備しました、予算との関係もあるでしょうけど、できるだけカラーにしたいと思っております。そのこともぜひよろしく頼みたいと思っております。

**【事務局（森本）】**

石狩叢書第二巻は、ショートストーリーのため、比較的読みやすい形で整理していただいているかなと思います。この後の作業は、絵や写真も組み込んだ中で入稿し、初校が上がってきた後、皆様方にご意見をいただきたいなと思っております。

本日は、石狩叢書第二巻の大きい方向性として、文字数が100頁ほどの原稿、それに絵や写真関係をそれぞれのストーリーの中に入れこんでいくことの確認をいただきたいと思います。内容等については、次回の委員会で細かいところをチェックいただきたいと思っております。今回は、例えば、写真はもっと多い方がいいなどご意見があればいただきたいと思います。

**【志賀委員】**

手書きのイラストは、最終的にはプロに書き換えてもらうイメージはありますか。

**【事務局（森本）】**

このまま入れるイメージです。

**【田岡委員長】**

できるだけ小さく入れたいと思っております。

**【志賀委員】**

このように写真とか絵がたくさん入るのはすごく良いと思います。ぜひそうしてほしいと思います。

**【田岡委員長】**

文章全体が1人称と3人称が混在している。3人称で書き出したが、どうも1人称でないと書ききれないところがあって、少し文章を直していったのですが、それでも1人称と3人称が混在している。もし読んでいて気になったら、そこをご指摘いただければと思う。いつの間にか3人称に代わっていたり、いつの間にか1人称に代わってしまったりするところも出てくると思う。

**【事務局（森本）】**

1人称、3人称のところも含めて、初校がおそらく1か月くらいで上がってくるかと思っておりますので、そこで皆様方に、がっちり確認いただいた方が良いでしょう。

**【事務局（及川）】**

どうしてもエピソードが入ると、1人称にならざるを得ないですね。

【田岡委員長】

書いているうちにだんだん、自分の体験談を書いているようになり、ちょっと少し偏り過ぎているかなと思ってしまうところがあり、中途半端になってしまう。

【事務局（及川）】

鱗の意味は、30ある、このいろんなお話の部分の鱗に例えているということなのですかね。

【田岡委員長】

そういうつもりで逸話というか、種はたくさんあるという意味で、鱗はひらがなの方がいいかもしれない。

【志賀委員】

基本的に、鮭に関連した石狩の歴史とか文化にまつわるエピソードを集めた感じであり、私もこのテーマ、鮭の鱗というのが分かりづらい。さっきおっしゃったような30のエピソードを鱗1枚1枚に例えたのだらうな、というようなことは想像したのですが。ちょっとタイトルとしてこれだけだと分かりづらい、伝わらないのかなとは思いました。例えばサブタイトルを付けたら、必要かと思いません。

【田岡委員長】

この13番に書いてある「鮭話しあれこれ」の方がいいのかもしれない。

【石橋委員】

資料の出处は書いておいた方がいい、例えば、観光協会ならば観光協会のように、どこから写真が出てきているのかというのは必要である。

【田岡委員長】

それは入れないとだめだね。

【石橋委員】

絵や写真それぞれ1枚1枚に入れる必要はないかもしれないが、少なくともこれがどこから出てきたのかというのは、情報として確保しておいた方がいいと思う。

【事務局（森本）】

了解しました。

【志賀委員】

出典は、後ろの方でいいですが、出す必要があると思います。それに加え、写真に写っている人の肖像権の問題を特に気を付けないといけないと思います。特に資料53は、これはそのまま載せるには許可が必要ではないかと思えます。

【田岡委員長】

もう一回、確認してみた方がいいかもね。増田明美さんに確認が必要だね。

【志賀委員】

一般の方でも、顔がよく分かるような写真は、気をつける必要があると思います。

【事務局（森本）】

本人への確認や印刷会社にも何らかの手法がないか相談しながら進めます。

また、石狩湾新港のリファーコンテナの写真に企業名もありますのでそこも確認します。

【村山委員】

50番のお菓子は良い写真ですが、写真49はお菓子が写っている。こちらもこういう風にお菓子を写した方がいいかなど。説明と関連して。

【三島委員】

原稿の中で、どうしてもこれはおかしいというものがあります。原稿1頁のイクラの醤油漬けなんです。だし醤油ですが、田岡さんのはだし醤油だったのですか。そうやって書いてしまうと、見た人がこれで料理しようかなという形になってしまうと思う。

【事務局（森本）】

三島さんがおっしゃっているの何頁ですか。

【三島委員】

1頁の後ろから4行目で、その家その家の作り方があっていいのかなと思いますが。だし醤油に浸してという部分が、普通とは違う作り方かなと思ひまして。

普通はお酒と醤油と半々ぐらいで、ちょっとみりん入れるぐらいで、だしは使わないのが違うのですけれども。あと、この頁の1番最後の「鎌倉漬け」は、にしんのみに使われる。それは違うんですか。

鮭の身を切り身にして、焼いて、その後に醤油とお酒とみりんをちょっと入れたところに漬けて、保存食って1週間くらい持つものを。昔はたくさん獲れた時に、鰯に醤油とお酒とみりんを入れたものを作って置いて、順番に浸して、ひと冬食べる。

新潟とかにも焼き漬けがあつて、もともとそういう風に作って食べていたのですけども。家のおじいちゃんがそれをやっていて。おじいさんってみのるさんの上。けんすけさんっていうのですけど、その人がそうやって作っていたよという話はよく聞いていた。

【事務局（森本）】

確認する機会があります。ただ、ここは明らかに、字が違うなどあれば言っていただければと思います。

【志賀委員】

石狩叢書一巻もそうでしたが、若い世代とかあるいは市外の人を読む可能性を考えると、地図が必要ですかね。

【田岡委員長】

地図は書いたが、まだ事務局に渡していなかった。

【志賀委員】

一つ、地図が欲しいのと、例えば今気づいたので、4頁目で浜益村との合併後がいきなり出ているのですが、私達は何のことか分かりますが、他地域の方や、若い方は、浜益村との合併は何だろうとことがあります。それを整理するときりが無いのですが。例えば、何年ごろ合併したとかは必要でないでしょうか。一言ぐらい注釈、あるいはカッコ付けが欲しいなと思います。

【事務局（森本）】

了解しました。改めて、それも含めて初校の時、見ていただきたいと思います。

【田岡委員長】

私が、この原稿でルビを振る方法が分からなくてかっこ書して、ルビを振れなかった。

【三島委員】

横にルビを振って表示してほしい。

【田岡委員長】

ルビを振った場所が適切かどうかね。もっとルビ打たないとだめなのか。漢字にこだわっちゃっているから、ひらがなじゃ意味が通じないのじゃないかとかね。

【三島委員】

ルビがあれば大丈夫でしょう。

【事務局（森本）】

横にルビ振った方がいいってことですよ。分かる範囲で修正して原稿入稿します。

それでは、次に、石狩叢書3巻目についてどうするか、話を進めます。皆様の方が知見を持っておりますので、こういうものの方がいいかなというのがもらえればと思います。以前お話した時は、鮭からちょっとテーマを変えてもいいのではないかという話もありました。鮭のテーマも2回続きましたので。何かありますか。

【三島委員】

また鮭かもしれないけども、村山伝兵衛さんの、石狩にかかわったものを村山先生が元気なうちにどうかと思います。

**【田岡委員長】**

この間、安井さんの話を聞いてて、やっぱり村山家の歴史っていうのを物語風というか、読みやすい、その古文書の解説っていう形にこだわらないで、書くのがどうかなと思います。

**【三島委員】**

今だと資料が結構あり、江戸末期からずっとこの方まで、たぶん書けると思うのです。

**【事務局（森本）】**

たぶん村山さんが全部書くのは現実的に厳しいですね。

**【三島委員】**

だから安井さんも一緒だとできるのではないかと思います。今だと思います。

**【田岡委員長】**

村山家文書を文書として断片的に捉えることは結構可能なのだけれども。通して通史にだと大変かな。

**【三島委員】**

1代目からずっと通してというのは必要かなと。結構面白いエピソードもある。

**【事務局（森本）】**

専門家にお問い合わせする部分はありますか。

**【田岡委員長】**

私はお手伝いできます。

**【三島委員】**

それを書くチームみたいなものを作って、そうしたらみんながやりやすくなるのかなと。

1人では大変なので、前回の郷土研究会で安井さんが年表みたいものを作ってくれたのですよ。それでやっていくと書くことができませんか。今やらなかったら、みんな歳を取っていくから、元気なうちに、わからないですものから身体は。物語風にわかりやすく書いてくれるといいと思います

**【事務局（森本）】**

二巻目は、来年発刊予定ですが、1年間、時間を空けることも可能です。

**【田岡委員長】**

いや、空けないで。毎年出したほうがいい。

**【事務局（森本）】**

来年の10月末くらいまで、原稿がある程度できればいいですが、まだ1年近くあります。

【田岡委員長】

手伝いといっても手伝いようがないのだけれども。実際のところは本人で書いてもらわないとだめだと思う。

【三島委員】

村山先生、松前藩の話も出てくるし。

【村山委員】

田中實さんから、村山家の資料を何とかまとめて残してほしいということはずっと前から言われていました。今でも思っておられるのだろうけれども、そういう気持ちは大事にしなければと思っています、ただ古文書を並べると、今のように文章でやるのと違うので、大変な作業なので安井さんも手助けしてもらい必要がある。

【事務局（森本）】

当然一人では書くのは大変でしょうから。

【田岡委員長】

村山文書は、全巻印刷されて世の中に全部出ているのですか。

【工藤委員】

印刷はされていません。それぞれの研究機関で、北大であったり北海道博物館であったり、持っているものについては公開といいますか、見ることはできます。図書館でも。ただ、本にはなっていないです。

【田岡委員長】

それを石狩でやる方法はあるね。

【工藤委員】

それから過去の町史編纂の時にそういうので、部分的に活字になっている部分はあるのですが、大部分はまだなっていない。あと村山家文書を読む会で、読んでワープロ入力したものを出力したものの、冊子の状態で読めるものは図書館にあります。

【田岡委員長】

読んでもらわないとだめだよ。記録して残してね、後世にだれでも読むチャンスを作る本と、積極的に読んで楽しんでもらう、そういう意味で石狩叢書ってあると思う。だから学問的意味合いを持つものは、別の次元というか。まちの人たちに知ってほしいのは、やっぱり石狩のまちを拓くにあたって、あるいは石狩の漁業者の中核をなす村山家というのはどんなのだったのかということを知って

もらいたいなど。

【三島委員】

ぜひ作ってもらいたいなど。今がチャンスかなと。

【事務局（森本）】

校正は、年内か1月の初めには上がってくると思いますから。その時に、まずこの郷土研究会の中でも、今日打ち合わせがあるということなので話をさせていただいて、その感触も教えていただければと思います。

初校があがってきましたら、また開催させていただきます。本日は天気悪い中、どうもありがとうございました。

令和3年12月24日 議事録確定

石狩叢書発刊編集委員会 委員長 田岡克介